

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



がんばる農業女子（ふぁー夢瑞穂 小松瑞穂さん 中仙地域）

副市長選任案に同意
平成30年度
当初予算を可決

内 容

CONTENTS

■第1回定例会の概要	2～3
■当初予算質疑	4
■一般質問	5～9
■委員会審査のあらまし	10～11
■先進地に学ぶ	12～13
■議会からのお知らせ	14

第1回定例会

第1回定例会は、2月23日から3月16日までの22日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の施政方針演説が行われ、市当局提出の人事案3件、条例案1件、補正予算案1件を同意・原案可決しました。

本会議5日目に、市当局提出の副市長選任の人事案1件、条例案21件、単行案6件、補正予算案9件、当初予算案17件をそれぞれ同意・原案可決したほか、請願2件、陳情2件を採択、意見書案3件を原案可決しました。

一般質問では9人の議員が市政全般について、予算質疑では2人の議員が当初予算について、市当局に質問しました。



本会議第5日目 起立採決
(議案第45号 平成30年度大仙市一般会計予算)

※第1回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます
(市議会トップページ → 議会中継(映像アーカイブズ) → 平成30年第1回定例会 本会議)

人事案

▼副市長の選任について【全会一致で同意】

西山光博氏(北海道出身)

▼人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて【全会一致で同意】

中村健秀氏(仙北地域：再推薦)
池田キミ氏(仙北地域：再推薦)
遠藤まき氏(中仙地域：新規推薦)

条例案

▼大仙市公園条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

大曲の花火観覧場などとして活用されている雄物川河川緑地運動公園の名称を「大曲の花火」公園に変更するとともに、同公園となっている雄物川右岸河川敷に加え、新たに花火打上場として整備した左岸河川敷を追加しました。

▼大仙市花火伝統文化継承資料館条例の制定について【全会一致で可決】

資料館の構成について、資料館本体のほか、改修中の産業展示館を資料館別館と位置付け、資料館の1階・2階及び別館を生涯学習エリアとし、3階・4階を花火伝統文化継承エリアとしました。

▼大仙市旧池田氏庭園条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

旧池田家住宅洋館が国の重要文化財に指定されたことを受け、今後は洋館の2階も公開することとし、併せて入園料を見直しました。また本家庭園については、期間を限定して公開しておりますが、今後は降雪期を除いて公開することとし、開園時間も見直しされました。

旧池田氏本家庭園入園料

(改正前)

区分	入園料の額
一般	320円
高校生以下	無料



(改正後)

区分	入園料の額
一般	300円
団体(20人以上)	240円
年間パスポート	700円
高校生以下	無料

※洋館2階を見学するときは入園料の額に200円を加算する。
ただし、高校生以下については、この限りでない。



旧池田家住宅洋館

補正予算

▼平成29年度大仙市一般会計補正予算(第13号)【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億5千万円を追加し、補正後の総額は506億9408万2千円となりました。

・除雪対策費(今冬の大雪に伴う除排雪経費)

2億5千万円

▼平成29年度大仙市一般会計補正予算(第14号)【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5億949万3千円を追加し、補正後の総額は512億357万5千円となりました。

主なもの

・ふるさと応援基金積立金(ふるさと納税制度による寄付金と基金利子分の積立金)

2797万9千円

・校舎等維持補修及び施設整備費(小学校費:東大曲小学校煙突改修費、藤木・角間川・太田東小学校のトイレ改修費)

1億6105万5千円

・校舎等維持補修及び施設整備費(中学校費:大曲西・協和中学校のトイレ改修費)

1億1222万8千円

当初予算

▼平成30年度大仙市一般会計予算【賛成多数で可決】

平成30年度の一般会計歳入歳出予算の総額はそれぞれ447億4120万円で、前年度比14億7980万円、率にして3・2%の減となりました。花火伝統文化継承資料館や広域消防本部などの継続事業がピークを終えたことから、前年度に比べて予算減となったものです。

【反対討論】

佐藤文子議員(日本共産党)

平成30年度一般会計予算には①マイナンバーカード普及のための予算が計上されているが、税と社会保障の個人情報为国が一括管理することの危険性が一層増していること②生活扶助基準引き下げを中心とした生活保護費大幅減額が行われていること③教育振興に関する補助金が、福祉活動や地域交流活動に取り組み市内2高校の後援会を対象に計上されているが、公立・私立に拘らずそれら活動に取り組み圏域高校も対象とすべきであり、また後援会ではなく学校に支援すべきであること④市民会館の自主事業に自衛隊音楽隊の演奏会が企画されているが、自衛隊の宣伝や勧誘活動への間接的な支援につながるため、自主事業は控えるべきであること―以上のことから、本予算案に反対する。

【賛成討論】

高橋徳久議員(だいせんの会)

地域枠予算の拡充による市民主体の活動の支援、新たな地域活性化策の推進、道路補修等の機動的な対応を図るため西部地域に直営パッチング班を新設、平成31年度からのコンビニエンスストアでの収納サービスに向けたシステム改修など、市民サービスの大幅な向上に向けて、限られた財源の中できめ細やかな対応をされている。

今後とも市民目線と地域目線により、災害復旧・市民の福祉向上に向け、各施策を着実に実行され成果を上げられることを期待するとともに、市長・職員一人一人が健勝で奮闘されるよう心からのエールを送り、本予算案に賛成する。

▼平成30年度大仙市後期高齢者医療特別会計予算【賛成多数で可決】

歳入歳出それぞれ8億9761万6千円で、対前年度比50667万9千円の増となりました。

【反対討論】

佐藤文子議員(日本共産党)

安倍内閣による社会保障費の自然増削減路線により、平成29年度だけでも大仙市の後期高齢者医療の被保険者1万6300人余りのうち、4690人に保険料の負担増をもたらしている。このことが平成30年度予算の歳入において、保険料収入が前年度比で4567万9千円もの増額計上となった要因であり、本予算案を認めることはできない。

請願

▼米の生産費を償う価格下支え制度を求める請願【全会一致で採択】

▼種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願【全会一致で採択】

陳情

▼陳情書(平成29年7月豪雨災害について)【全会一致で採択】

▼最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情【全会一致で採択】

平成30年度一般会計・特別会計・企業会計予算 (単位:千円)

会計名		予算額	前年度比
一般会計		44,741,200	▲3.2%
特別会計	国民健康保険事業	7,934,143	▲25.1%
	後期高齢者医療	897,616	6.0%
	学校給食事業	1,061,015	2.1%
	奨学資金	30,100	4.7%
	スキー場事業	100,618	15.7%
	太陽光発電事業	121,214	0.02%
	財産区(6地区)	12,352	▲10.6%
企業会計	市立大曲病院事業	977,096	▲3.7%
	上水道事業	1,822,903	▲35.8%
	簡易水道事業	2,182,936	8.3%
	下水道事業 (※下水道4特別会計より移行)	5,762,379	-%
計		65,643,572	▲5.4%

当初予算質疑

金谷道男 議員（大地の会）

◇一般会計 行政評価推進経費

【質疑】毎年行っている行政評価の結果を、どのように政策策定や予算編成に生かしているのか。

【企画部長】市民アンケート調査により得られた市政評価の結果は、各課での政策立案や予算要求時の基礎資料としての活用に加え、平成29年度からは「大仙市政調整会議」で、今後数年の新規事業の立案や既存事業の見直しのための根拠資料として活用している。個別事業評価の結果は、各課での当初予算要求時に、事業の組み立ての基礎資料として活用している。

◇一般会計 地域交通対策事業費

【質疑】市の公共交通を利用できる、免許返納者優遇制度による割引回数券が1人100枚となっているが、これを超えた場合の優遇はないのか。

【企画部長】大仙警察署など関係機関との連携を強化し、さらなる制度の周知を図っていくとともに、利用状況等を分析しながら、追加の交付などを検討していく。

◇一般会計 新規就農者研修施設運営費

【質疑】研修修了後、就農した人たちへの営農支援や事後研修の仕組みを考えるべきでは。

【農林部長】資金面では、修了者

の大半が国の農業次世代人材投資事業を活用しており、受給に係る支援をしている。設備投資では、県の補助事業に対し、市が協同して支援をしている。営農相談等では、県やJA、先進農業法人の代表者等を講師に招き、農業基礎講座を開催している。この講座を通じ、農業次世代人材投資事業の受給者ごとに農業関係機関が連携したサポートチームを編成し、定期的に巡回している。平成30年度からは巡回に加え、営農状況に応じたきめ細やかな支援に向けたフォローアップ体制の充実に努めていく。

後藤 健 議員（大地の会）

◇一般会計 歳入予算

【質疑】持続可能な財政運営を図るために、平成30年度早々から行われる事務事業点検の具体的手法とスケジュールを伺う。

【総務部長】全会計で約750件の全事務事業を、法定受託・施設管理・補助金交付・建設事業など種類ごとに分類し、「市の関与」の必要性を判断し、事業の費用対効果と市民サービスの確保を照らし合わせて総点検するほか、再任用職員の増加に伴う臨時嘱託職員の雇用調整や公共施設の運営手法の改善なども含め、平成31年度当初予算編成作業に入る11月を目処に、個別事務事業の方向性を示していく。

第1回定例会賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ、表示しています。

議案等名	議決結果	だいせんの会					大地の会					新政会			共産党		市民クラブ		公明党		創生会		地域住会の会						
		高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	橋村誠	児玉裕一	高橋徳久	石塚柏	鎌田正	高橋幸晴	大山利吉	佐藤育男	後藤健	金谷道男	橋本五郎	小松栄治	佐藤清吉	渡邊秀俊	茂木隆	小山緑郎	佐藤文子	藤田和久	三浦常男	秩父博樹	挽野利恵	富岡喜芳	本間輝男	小笠原昌作	
議案第45号 平成30年度大仙市一般会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第47号 平成30年度大仙市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○

賛成者は○とし、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

第1回臨時会

第1回臨時会が1月31日に招集され、市当局提出の条例案2件、補正予算案1件を原案可決し、その後議会運営委員会より追加提案のあった条例案1件を原案可決しました。

議会運営委員会提出議案

▼大仙市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

建設水道常任委員会の所管について改正されました。

上下水道部・水道局

上下水道局・災害復旧事務所

条例案

▼大仙市役所部等設置条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

平成29年に発生した大雨災害により被害を受けた市管理河川や市道などの公共土木施設や農地・農業用施設などの農林水産施設について、迅速かつ効率的に災害復旧事業を進めるため、現在の組織体制を見直し、新たに技術職員や任期付採用職員を集約した部レベルの「災害復旧事務所」が、西仙北支所内に設置されました。



渡邊 秀俊 議員（新政会）

Q 行政需要に対する
職員体制は十分か

A 65歳定年制度が明らか
になった段階で、次期計
画を策定

質問 定員適正化計画での定員の目標数値は達成されるが、現状では再任用職員の補完で保たれている。これからの定員について伺う。

市長 組織機構や事務事業の見直し、人材育成、計画的な職員採用、介護保険施設・保育所・幼稚園の社会福祉法人化、民間活力の活用、再任用職員の活用などにより、目標の850人は達成できる見込みである。しかし、住民ニーズの多様化・高度化による公共サービスの拡大、災害などの突発的事態への対応、社会経済情勢の変化により業務が増加する傾向にあることから、現在の職員数では厳しい状況であると認識しており、再任用職員の活用と併せ、定年65歳の制度設計が明らかになった段階で、次期定員適正化計画を策定する。

◆空き家の解消策は

質問 空き家の解消には、さらなる解消策が必要では。



市長 解体費の一部助成や空き家バンク制度の活用により解消が進んでいるが、ここに来て空き家件数は横ばい傾向にあり、また増加も予想されることから、一步踏み込んだ対策が必要と考えている。空き家解体が進まない要因として、解体後の土地の固定資産税の上昇があるが、解体前・解体後の固定資産税の情報提供、上昇した場合の税額に対する補助、建築間もない空き家住宅に対しては、住宅リフォーム事業を拡充して補助対象に含め、資産価値を高めて、販売・賃借に結びつけるような方法も講じたい。

質問 空き家解体後の土地を市に物納することで、解体費用を相殺できる制度はできないものか。

市長 有効な方法であると捉えているが、行政目的として利用が見込めない物件については維持管理費が発生することから、寄附受入は状況に応じて判断してまいりたい。



石塚 柏 議員（だいせんの会）

Q J A秋田おばこに
支援は可能か

A ソフト・ハード両面で
バックアップ

質問 大仙市が、J A秋田おばこの再生に貢献することは可能か。

市長 J A秋田おばこが組織として進める営農推進に係る事業等については、これまで同様、ソフト・ハードの両面でバックアップしていく。

質問 直近に、大仙市政とJ A秋田おばこが互いに
関わり合っている事業の内容は、いかなるものなの
か。

市長 J A秋田おばこは、平成30年産園芸部門の販売額30億円を目標に、枝豆・トマト・花き等の集出荷体制や選果施設等を整備しており、これらの事業費20億8,800万円に対し、市を通して国より、9億1,400万円を補助している。また中仙地域のトマト栽培施設「園芸メガ団地」の整備に対して、県の補助事業に市が嵩上げし、事業費4億6千万円のうち、3億1,900万円を補助している。また今般の大

雨災害においては、農業被害の復旧に対する貸付金の保証料助成など、J Aと市が協調して支援する独自の取り組みがあり、農業者に対するソフト事業においても支援や連携が行われている。

質問 J A秋田おばこの黒字化のために①大仙市・仙北市・美郷町の二市一町で構成するJ A秋田おばこの再生計画を支援する協議会を作る②累積赤字の原因の一つとなった、会計処理の電算システム導入費の支援③「おばこ米」をブランド化するための販促費の補助④J A秋田おばこの赤字に、指導事業の約9千万円の負担があるが、市政に矛盾しない経費の補助一を検討できないか。

市長 仮に今回の損失、累積赤字や未収金について全額損失引当すると、自己資本比率が3.0%になり、破綻処理というふうになり、こうした事態はなんとしても避けなければならない。J A秋田おばこが一日も早く経営を再建し、農家の不安が払拭されるよう、引き続き県と連携しながら、支援できるものは支援してまいりたい。議員からご提案のあった支援策についても併せて検討してまいりたい。



藤田 和久 議員（日本共産党）

Q 給付型奨学金制度導入を検討できないか

A 制度のあり方について協議していく

質問 国の制度改善を要求するとともに、市独自の給付型奨学金制度の導入を検討できないか。

市長 国へは給付額、対象人員等の拡充について、機会を捉えて要望してまいりたい。現在大仙市では「ふるさと就職者奨学金償還免除制度」があるが、県の新たな助成制度と連携した市の制度の在り方について、関係部局と協議していく。

◆除雪に関する改善点を実現してほしい

質問 朝方の除雪や日中の吹雪などに対応するため、除雪出勤基準を改善できないか。

市長 朝方のドカ雪や日中の天候急転による状況下では、業者からの情報収集などにより状況把握に努め、適切に除雪車の出勤を判断している。今後も気象状況等を総合的に判断した出勤を心掛けていく。



質問 除雪車は高齢者世帯などへの配慮が必要であり、玄関前に黄色の旗を立てて配慮の必要なことを示すシステムはとれないか。

市長 高齢者世帯への置き雪やごみ集積所などの除雪については可能な限り配慮していくが、高齢者等雪対策総合支援事業による除雪支援を利用するなどしていただきたい。

質問 除雪中の事故・トラブルが多発しているが、除雪中ということが分かっているならば、事故は減少できる。除雪中と書かれた赤い旗を、除雪業者や市民が除雪中に掲示して、少しでも事故がなくなるようなシステムをとれないものか。

市長 十分に気を付けて作業することが基本であり、安全講習会や注意喚起、除雪業者への指導に努めていく。システムについては検討していく。



佐藤 隆盛 議員（市民クラブ）

Q J A秋田おばこ巨大赤字問題への率直な感想は

A 大変驚き、残念。ソフト・ハード面でバックアップする

質問 事件の全容が見えない中であるが、市の基幹産業である農業、農家への精神的な負担も大であると考え、この先の展開によってはなんらかの支援策も含め、市長の率直な感想を伺う。

市長 これまで40年以上続いた生産調整の廃止による米政策の大転換により、農業を取り巻く環境が大きく変わるこの転換期において、6次産業化の推進等で本市の基幹産業である農業の振興を図ろうと考えていた矢先に、こうした問題が起こったことについては、大変驚いているとともに、大変残念に思っている。一刻も早い全容解明と再建に向けての取り組みを注視しながら、これまでと同様、ソフト・ハードの両面でバックアップしていく。

◆身体障がい者の雇用は

質問 4月から雇用率が0.2%ずつ引き上げられる



が、雇用率達成に向け、どのように取り組んでいくのか。

市長 障がい者との「共生社会の実現」を目指すためには、雇用する企業の理解が不可欠だと思っている。関係機関と一体となり、対象企業で未達成の事業所や対象以外の事業所を含めて働き掛けていくとともに、障がい者が働きやすい環境づくりができるよう、企業に対し支援していく。

◆出稼ぎに対する考えは

質問 出稼ぎに対する考えと今後の出稼ぎ事業の方向性は。

市長 故郷に残した家族の生活を支え、都市圏の社会資本整備に従事し、日本経済の発展の尽力された大切な労働者であると認識している。今後も安心して就労できるよう、就労前無料健康診断、傷害保険料の補助、市広報による地元情報の提供など、支援を継続していく。



高橋 徳久 議員 (だいせんの会)

**Q (仮称)花火伝統文化
継承資料館の開館は**

**A 準備期間を経て
8月5日の予定**

質問 多忙になる時期前に、早めに開館できないのか。

市長 開館日は、6月上旬の建物の引き渡しから約1カ月半の準備期間を経て、8月5日に行う予定である。また資料の提供や展示物の製作に当たり多大なるご支援・ご協力をいただいた花火関係者、近隣住民および報道関係者等を対象に、プレオープンを実施したいと考えている。

質問 近隣敷地を購入する構想があるのか。

市長 これまで国・県・市議会をはじめ多くの関係者のご理解・ご支援の下、推進してきた資料館整備に係る事業計画なので、まずは計画されている事業を着実に実施していく。近隣敷地を購入する構想は、現在の計画には盛り込まれていないが、その可能性などについて今後調査・検討してまいりたい。

◆姉妹都市締結を

質問 台湾^{たいべい}新北市との姉妹都市締結について、アクションを起こす気持ちがあるのか。

市長 新北市は人口400万人、面積2千平方キロメートルに及ぶ大都市なので、実現可能な交流の要素として、青少年交流や学校交流、経済団体同士による経済交流などが考えられるが、行政間の友好関係構築に向けて、新北市と検討・協議をしてまいりたいと考えている。



開館に向け、工事が進む
花火伝統文化継承資料館



秩父 博樹 議員 (公明党)

**Q 周遊ルートは無電柱化
を検討すべきでは**

A 試算も含め調査する

質問 花火通り商店街の駅前の入口から丸子橋までの区間を、8月にオープン予定の“はなび・アム”までの周遊ルートと位置付け、無電柱化を検討すべきと考えるがいかがか。(※はなび・アム…花火伝統文化継承資料館の愛称)

市長 道路上の電柱・電線等は、通行空間の安全性・快適性、良好な景観形成や観光振興および道路の防災性の阻害要因となっており、無電柱化によるその効果については十分に認識している。魅力ある街並み形成や将来ビジョン等、地元商店街や地域の皆さま、また電柱占有者である電気事業者などのご意見を十分に伺いながら、その必要性を検証するほか、事業費については国の補助金対象に合致するなど先進地の事例を参考にしながら、試算も含め調査する。

現在の
花火通り商店街



◆市民満足度の向上につながる職員満足度の向上を

質問 自治体の使命である「市民の福祉の増進」を進めていくためには、まずは職員の満足度を高めていく必要があり、職員満足度を調査し、得られた結果を職員が対象となる施策や事業に反映させていくことが必要と考える。市民満足度の向上のために、職員満足度の向上を目的とした調査を実施すべきと考えるが。

市長 本市においても一定の把握は行っているが、職員満足度調査は自己申告書よりも体系的で、また職員にとってもより提出しやすい環境において行われているものと思われるので、今後、先進事例を研究の上、検討する。

※このほか、学校での心肺蘇生教育の普及推進、突然死ゼロを目指した危機管理体制の整備について質問しました。



佐藤 文子 議員（日本共産党）

Q 国に生活保護基準引き下げ計画の中止を求める

A 制度改善が必要な場合は、市長会を通じ要望

質問 政府は、所得が最も少ない貧困層の所得が下がっていることを理由に生活保護基準を引き下げているが、これは貧困のスパイラルを生み出すもの。政府に対し、生活保護基準引き下げ計画を中止し、2013年以前の削減前の基準に戻すよう求めるべき。

健康福祉部長 国の定期的な見直しは必要と考えるが、国の動向を注視するとともに、制度の改善が必要と認められる場合は市長会を通じて、国・県に要望していく。

質問 生活保護基準額引き下げの影響が就学援助に及ぼさないよう、準要保護の基準を生活保護基準のせめて1.4倍に引き上げてはどうか。

教育長 国の生活保護基準に見直しがあっても、平成25年度より以前の基準を用いて就学援助の認定を行っている、現行の基準は改正後の生活保護基準の

1.4倍近くの水準にあり、県内の市町村では最も高い倍率になっている。

質問 国で定めた就学援助の基準外支給項目である眼鏡やコンタクトレンズについては、低所得者世帯にとって大きな負担を伴う。市でもこの補助を実施してはどうか。

教育長 大仙市では要保護の国庫補助金の支給項目のうち、クラブ活動費を除く全てを準要保護の支給項目としており、県内の市町村では最も支給項目が多い。眼鏡は生活全般にわたって使用するものであるため、購入費を新たに支給項目とすることは現段階では難しい。

◆高齢者に「便利帳」を

質問 高齢者が安心して暮らすため、さまざまなサービスを有効に活用できるよう「便利帳」を作成し、全戸配布するよう検討していただきたい。

市長 地域包括支援センターが「高齢者なんでも相談窓口」であることをPRしていくとともに、さまざまなサービスが網羅された便利帳を作成すること、また、より広く全市民向けの便利帳についても検討していく。



挽野 利恵 議員（公明党）

Q タイムラグを解消できないか

A どのような対応策が可能か検討

質問 高齢者等雪対策総合支援事業で、利用者が利用券で支払った後、市役所から自己負担分の請求が来るのが遅れるなど支払い方法の難点の改善と、高齢者が所有している空き家への支援について伺う。

健康福祉部長 高齢者等雪対策支援事業については、除雪をすることが困難な高齢者や障がい者などで構成される世帯で、親族から除雪の援助を受けることができない方に対し、除雪費用の一部を助成しているものである。雪下ろし等の申し込みが殺到し、事業者がその対応に追われ、市役所への請求が遅れることもあることから、来年度に向けて、どのような対応策が可能か検討する。空き家等については、所有者が適正管理すべきとして支援を行っていなかったが、介護施設等からの一時帰宅などの場合は、福祉の視点から、個別の事情を判断した上で、対応できる仕組みについて検討する。



◆むすび・サポート事業の今後は

質問 少子化対策の一環として結婚支援を目的としているが、参加者は市外の方も多数となっている現状において、婚活は広域で考える時代ではないか。

市長 近隣市町との共催イベントについて協議しており、より多くの出会いの場創出などの事業の効率化が見込まれることから、今後は広域的に結婚支援事業を進めていきたい。



本間 輝男 議員（創生会）

**Q 経常収支比率
悪化を問う**

**A 財政の弾力を確保し、
改善に努める**

質問 本年度予算での経常収支比率95%は、財政の硬直化が進展すると懸念されるが。

総務部長 この数値は財政構造の弾力を判断する指標であるが、地方交付税に依存する本市の体質から、ここが好転しないと比率改善が困難と捉える。しかし、自主財源確保、事業見直し、経常経費削減、施設管理改善等、全庁を挙げて取り組みたい。併せて財政規模の適正化も踏まえ、効率的な予算執行に努める。

◆清算業務はどうなる

質問 299億円余りで終了する駅前区画整理事業だが、清算業務が対象権利者の増減等で複雑化していないか。

建設部長 事業開始から30年余りが経過し、権利者死亡等により相続人発生や世代交代が進み、多様・

複雑化している。丁寧な説明と対応に心掛け、清算に努めたい。また5年分割も可能で、法律上10.75%の延滞利率を予定している。

◆廃棄物処分場の今後は

質問 市内7カ所の廃棄物処分場廃止事業費の数値が甘い。達成年次を明示し、市民に公開して事業推進をすべきでは。

市民部長 総事業費は4億5千万円ほどを要し、現時点では試算した総事業費内で実施可能と考えている。大曲・中仙の処分場を先行して廃止、順次残り5施設を廃止し、平成41年度に完了する予定である。

◆西仙北中央公民館の全体像は

質問 西仙北中央公民館改築事業の全体像が見えない。基本設計を公表すべきでは。また公的補助は。

生涯学習部長 地形測量・解体設計は完了しているが、基本設計は工期が3月16日である。完了次第、機会を捉えて報告してまいりたい。なお現在地に刈和野大綱引き等の施設も併合した生涯学習施設としたい。また国や県の補助で、都市再生整備計画事業交付金を活用できる可能性があるため、今後調査を進めてまいりたい。

ようこそ 大仙市へ

～平成29年度の行政視察受入状況～

大仙市には毎年、全国各地の議会から行政視察の方々を訪れています。平成29年度は、21団体149人の方々が見学に訪れました。視察の内容で一番多かったのは「学力向上の取り組み」で11団体でした。来訪議会・視察目的は次のとおりです。



学力向上の取り組みについて

- 佐賀県神埼市／宮城県山元町
- 栃木県上三川町／大分県国東市
- 埼玉県川島町／埼玉県富士見市
- 神奈川県川崎市／埼玉県北本市
- 北海道北斗市／広島県呉市
- 茨城県かすみがうら市

**空き家の適正管理について
大曲市民会館について**

長崎県大村市

**豪雨災害の復興計画について
宮崎市と大仙市の有縁交流について**

宮崎県宮崎市

大仙市の雪対策について

福島県会津若松市

都市機能の集約等について

静岡県浜松市

**男女共同参画について
男女共同参画推進条例について**

愛知県大府市

農業経営と担い手対策について

埼玉県川越市

**「未来へつなぐ」
農村地域サポート事業について**

富山県富山市

花火産業構想について

茨城県土浦市

**地域医療・精神医療施策について
市立病院の経営状況について**

広島県府中市

旧池田氏庭園について

秋田県

企画産業常任委員会

条例案3件、単行案1件、補正予算案1件、当初予算案1件、請願2件、陳情1件を審査しました。

●お土産については？

【問】建設中の「はなび・アム」に、お土産売り場は。

【答】売り場は設けていない。オープンの日や企画展の際は、産業展示館等を活用し、スポット的に出店^{しおり}してもらうことを検討している。また絵葉書や葉^{しおり}など簡易的なものを、事務所の窓口で販売できるよう対応したい。

●お試し住宅が必要では？

【問】移住者数が年々増えているが、当市にはお試し住宅がない。さらに移住者を増やすため必要では。

【答】お試し住宅については、現在実施中の「お試し移住体験」とあわせ、お試し住宅を設置することができれば、さらに移住促進につながると考える。取り組みを進めたい。

●資格取得応援事業の新規対象の内容は？

【問】新規対象資格として、保育士資格と幼稚園教諭資格が対象となっているが、どういった内容に補助するのか。

【答】学生を除く方を対象に、通信教育等により資格を取得しようとする経費に対し補助するものである。



総務民生常任委員会

条例案5件、補正予算案3件、当初予算案10件を審査しました。

●国保制度改正の影響は？

【問】住所地特例規定により、後期高齢者の保険料等にどんな影響があるのか

【答】現在は後期高齢者が県外の特別養護老人ホーム等に入所すると、入所している県の広域連合の保険料となるが、今後は、秋田県の広域連合の保険料率となるので、保険料率が変わる。なお高額療養費負担区分及び自己負担割合は、全国統一となっている。

●手数料に違いはあるか？

【問】市税や保育料等のコンビニ収納は、利便性が高まると思うが、銀行等とコンビニとの手数料の違いはどのぐらいか。

【答】銀行の口座振替は、税抜き10円である。コンビニ収納の場合は、税抜き57円となる。費用は掛かるが、24時間、365日納付できる環境を作ることで、市民サービス向上につながると思う。

●後期高齢者医療保険料はどうなる？

【問】保険料の特例軽減の見直しにより、影響を受ける人数や負担増は、どれくらいか。

【答】特例軽減は、今、段階的に廃止されており、所得割は5割軽減の方が、平成29年度は2割、30年度は軽減なしとなり、約1,390人で、1人当たり約4,400円の負担増となる。また社会保険の被扶養者で、均等割9割軽減となっていた方が、平成29年度は7割、30年度は5割軽減となり、約2,300人で、1人当たり7,942円の負担増となる。

※平成30年度一般会計予算及び後期高齢者医療特別会計予算には、反対討論がありました。

建設水道常任委員会

条例案5件、単行案4件、補正予算案7件、当初予算案4件、陳情1件を審査しました。

●ほかの地域にも必要では？

【問】昨年7月の豪雨災害を受け、国の補助制度を活用して大曲地域を対象に「雨水管理総合計画」を策定することのだが、同じく公共下水道区域の神岡・西仙北地域や、農業集落排水の地域でも、こういった計画は必要ではないのか。

【答】この計画は、公共下水道区域に限ったもので、神岡地域の一部、西仙北地域の一部も公共下水道のエリアに入っているが、特に西仙北地域での浸水被害は、堤防の未整備による雄物川の氾濫が原因である。大曲地域のような内水的な被害ではなかったため、浸水被害が一番大きかった大曲地域を中心に計画を立ててまいりたい。

●公園遊具の新設は？

【問】経年劣化した公園の遊具は、原則解体とのことだが、新たに設置する計画はないのか。

【答】現在のところ、遊具の新設は考えていないが、遊具が必要だという要望があれば、その都度検討し、対応してまいりたい。

【問】実際、公園で遊ぶ子どもたちの保護者から、遊具に対する要望はないのか。

【答】ブランコや鉄棒など、一般的な遊具に関しては「残してほしい」との要望は多数ある。そのような場合は、修繕して残していきたいと考えている。



教育福祉常任委員会

条例案9件、単行案1件、補正予算案2件、当初予算案5件を審査しました。

●販売目標は？

【問】旧池田氏庭園は常時公開となるが、来年度から導入される「年間パスポート」は、他の同様の施設でも導入されているのか。また販売目標を設定しているのか。

【答】東北地区の名勝指定となっている13カ所を調べたが、導入しているのは秋田市の「如斯亭」のみであった。販売目標については、常時公開となるのが30年度からであり、これまでの限定公開と違い実績がないので推定できないが、常時公開にあわせていろいろなイベントを織り込み、リピーターを増やすことに努めてまいりたい。

●減少の理由は？

【問】介護保険の包括的支援事業で、配食サービス利用者が年々減少しているが、その理由は。

【答】配食サービスという名称であるが、週1・2回の安否確認に主眼を置いた事業であり、これ以上、回数を増やすことへの対応が難しいことや、食事付の介護サービス等が充実してきたことが考えられる。

●相談窓口は？

【問】生活困窮者の自立支援について、大仙市では相談窓口はあるのか。

【答】自立相談支援と家計相談支援の事業を大仙市社会福祉協議会に、就労支援はNPO法人大仙親と子の相談支援センターに委託しており、そちらで窓口を開設している。

総務民生常任委員会



事務事業評価について学ぶ

2月8日から9日まで東京都足立区、国立市で視察を行いました。

国立市は、事務事業評価を統一の評価シートで毎年度実施していました。評価は各担当者が全事業について行い、次に課長等による施策評価、市長・部長による施策優先度評価会議と段階的に行い、最終的にはその結果を実施計画や次年度の予算編成に反映させていました。また、評価が内部だけにならないようにと、学識経験者3名、公募2名の5名による事務事業評価委員会が、特定の事業ではありませんが、第三者評価を行っていました。そして、これらの評価は全て市のホームページで公開していました。

市民福祉向上には、事務事業の評価は欠かせないものだと思います。今回の視察を参考に、当市で行っている行政評価や事務事業評価のさらなる質の向上と、活用促進の必要性を感じました。

足立区では窓口業務の民間委託取り組みを調査しましたが、今回は紙面の関係で割愛させていただきます。

(委員長 金谷道男 記)

企画産業常任委員会



みとの魅力発信課の取り組みを研修



うつのみやろまんちっく村での研修

2月6日、茨城県水戸市の「みとの魅力発信課」の取り組みを研修。同課は、ネットでの情報発信や企画、フィルムコミッション等を行っており、短い動画の量産を重視することで、SNSのフォロワーも多数。また強力なフックとして、若い女性ファンが増加傾向にある「刀剣乱舞」と「徳川ミュージアム」を結び付けての取り組みは集客に成功しており、自治体からの情報発信にはストーリー性に重きを置くことが必要と感じました。

翌7日、栃木県宇都宮市の「道の駅うつのみやろまんちっく村」を運営する(株)ファーマーズ・フォレストの取り組みを研修。同社は道の駅の運営にとどまらず、地元の小規模農家が都心のスーパーで農産品を売る仕組みを構築したり、廃墟のようになっていた採石場を人気の観光スポットに変貌させたりと、多彩な領域にビジネスのフィールドを広げており、地域を売り込むハブとして効果的な方法を実践されていると感じました。

(委員長 秩父博樹 記)

議会改革推進会議



議員間討議の様子

1月18日に早稲田大学マニフェスト研究所へ、議員間討議をテーマに研修をしてきました。

同研究所からは、議会改革度調査での当市議会の改革度は、回答があった1,347議会中、600位との報告がありました。

どのように意見が出て、どのように決定に至ったのか、住民への説明責任は、議決権を持つ議会にこそあります。そのためには執行部への質問や質疑だけでなく、また、賛成・反対の一方的な主張だけでなく、議員同士が十分に討議を行い、争点や論点を明確にし、合議形成を図ることが大切です。当市議会として、まずは二代表制の中で、特に新規事業、拡充された事業、廃止された事業等を重点に議論し、住民に説明していくことが大切であると考えさせられました。

(委員長 小山緑郎 記)

教育福祉常任委員会



生活困窮者自立支援制度の
取り組みを研修



川越市立博物館の運営を学ぶ

2月6日から8日まで埼玉県越谷市、川越市への視察を行いました。

越谷市では、生活困窮者自立支援制度の取り組みについて研修しました。平成27年4月の制度施行に先立ち、平成26年度からモデル事業として、自立相談支援事業が開始されておりました。家計相談支援事業では、家計の現状把握、生活の見直しをして家計を改善するなど、家計の視点から生活困窮の出口を見出す支援を行っており、また、こどもの学習支援事業では主に中学生を対象に、学生ボランティアによるマンツーマンの学習指導、進学意欲の少ない親子には学習支援員による家庭訪問など、包括的な支援が行われていました。

川越市では市立博物館を視察しました。博物館の機能として、川越市の資料の収集、調査・研究、保存し、川越地方の原始から現代までの暮らし、文化や遺産などを常設展示しており、また特別展や企画展、歴史講座、民俗芸能の実演、子ども体験教室などが頻繁に開催されておりました。

(委員長 小松栄治 記)

建設水道常任委員会



環状交差点の活用を学ぶ



環状交差点を現地視察

2月5日、埼玉県羽生市で、環状交差点の活用について現地視察を行いました。ヨーロッパの都市で見かける円状の交差点です。

羽生市では、大型ショッピングセンター（200店舗）の開業で交通量が増え、その近くの交差点での交通事故が懸念されたことから、環状交差点が建設されました。環状交差点には、信号機が不要で管理費が安い、信号待ちがなくスムーズに通抜けできる、車の正面衝突事故がないなどの利点があります。さらに、思いのほか交差点の面積が小さく、工事費も少なくすむという利点もありました。ただし、こうした利点があるのに、なかなか環状交差点が普及しないのは、設置に際し用地買収が必要となったとき、今ある交差点に面している地権者の合意を得ることが難しいという課題があります。また新たな工事の財源が必要です。

仮に大曲駅前の交差点を環状交差点にすると仮定した場合、これらの課題を解決しなければなりません。適地があれば取り組みたい課題と感じた視察でした。

(委員長 石塚 柏 記)

議長交際費（1月1日～3月31日）

項目	件数	金額
予算額		900,000円
既支出額	76件	604,448円
今回支出額	30件	154,400円
内訳	弔慰	1件 10,000円
	慶祝	17件 83,000円
	協賛	12件 61,400円
予算残額		141,152円

6月定例会日程のお知らせ

5月31日(木) 本会議第1日（市政報告、議案等上程）

6月11日(月) 本会議第2日（一般質問）

12日(火) 本会議第3日（一般質問・議案質疑、委員会付託）

13日(水)・14日(木) 常任委員会審査

20日(水) 本会議第4日（委員長報告、質疑、討論、表決）

※現時点での予定であり、変更される場合があります。
変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

市政懇談会を開催します

市民の皆さまと自由に意見交換する市政懇談会を、次の日程で開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

開催日	場 所	時 間
6月25日(月)	南外コミュニティセンター(南外字下袋218)	午前10時～
	はびねす大仙(幸町2-70)	午後1時30分～
6月26日(火)	内小友公民館(内小友字仙北屋68-2)	午前10時～
	角間川公民館(角間川町字四上町1)	午後1時30分～
6月27日(水)	神岡福祉センター(神宮寺字蓮沼17)	午前10時～
	中仙農村環境改善センター(北長野字茶畑141)	午後1時30分～
6月28日(木)	西仙北支所(刈和野字本町5)	午前10時～
	協和支所(協和境字野田4)	午後1時30分～
6月29日(金)	おおたコミュニティプラザ(太田町横沢字窪関南501)	午前10時～
	さくまろ館(高梨字田茂木10)	午後1時30分～



昨年開催された市政懇談会
(西仙北地域)

広く市民の皆様のご意見をお聞かせください。

【お問い合わせ】

議会事務局

TEL 63-1111 (内線 303)

※日程については変更になる場合があります。変更についてはチラシ等でお知らせします。

市民の声

暫定市議136人、在任特例期間満了に伴い、平成17年9月18日に初の大仙市議会議員選挙が行われました。定数30人に対して、暫定市議55人、新人11人の66人が立候補、激しい選挙戦が展開されました。結果、暫定市議24人、新人6人が当選、いよいよ実質、大仙市のスタートが切られました。

あれから12年半、大仙市はどう変わったでしょうか。事業の大半は旧大曲市に集中。仙北組合総合病院の移転に伴う駅前地区の整備、大曲の花火を日本にとどまらず、世界に向けて発信する花火産業構想事業等々、幸いにも市民の間でもその評価は高く、評判も上々であると確信しております。

しかしながら一つだけ、どうしても気になるのが借金の多さです。実質公債費比率も高く、その数値も突出しております。現に平成21年度は実質公債費比率18・9%となり、レッドカードすれすれの域まで達したのも事実です。素人の一般市民が議員定数・議員報酬に言及するのはいかかと思うのですが、定数・報酬の在り方は人口減少問題・市財政状況と密接なつながりがあり、市民からすると一番分かりやすい議会改革であり政策であると思っております。参考までに記すと、合併前69あった市町村が25に集約されました。そのうち秋田市は別格としても、残り24市町村中、議員報酬が一番高いのは大仙市で43万2千円、次に高いのは横手市で38万4千円、5万円も大仙市が多いのです。定数でも人口が横手市よりも1万人少ないのに、大仙市28人、横手市26人。逼迫した市の財政状況を想うとき、議員定数の削減・議員報酬の減額、この二点は避けては通れないものではないでしょうか。

(仙北地域 69歳 男性)

編集後記

今年の冬は豪雪となり、市民の皆さまも大変ご苦労なされたのではないのでしょうか。雪対策予算が不足となり補正もありましたが、4月に入り穏やかな日が続いていて、あの雪はいつたいてい何処に行っただのかと思うところですね。

平成30年度の予算案が可決となりましたが、老松市長の初めての予算編成であり、市長の市民への思いが詰まった予算内容となっているように思いました。また空席となっていた副市長の選任に、財務省出身の西山光博氏が全会一致で同意されました。市長を補佐していただき、市政に対するご活躍を期待いたします。上記に市政懇談会の案内がありますが、分かりやすい議会を目指していますので、ぜひ多くの皆さまに参加いただき、ご意見や質問をよろしくお願いたします。

(委員 古谷武美 記)

広報広聴常任委員会

- 委員長 後藤 健
- 副委員長 高橋 徳久
- 委員 小笠原昌作
- 委員 佐藤 隆盛
- 委員 佐藤 利恵
- 委員 佐藤 文子
- 委員 小山 緑郎
- 委員 佐藤 育男
- 委員 古谷 武美
- 委員 橋村 誠



- 橋村 誠
- 古谷 武美
- 佐藤 育男
- 小山 緑郎
- 佐藤 文子
- 佐藤 利恵
- 佐藤 隆盛
- 小笠原昌作
- 高橋 徳久
- 後藤 健